

## 長野市のごみ処理に係る主な課題

地球規模で甚大な影響を与えている温暖化を防止するため、より一層の環境負荷軽減が喫緊の重要課題となっており、本市のごみ処理においても、更なる減量化を図り、環境への影響を可能な限り低減することが求められている。

また、今後一層の少子高齢化の進行が見込まれ、併せて単身世帯の増加、ごみ処理の広域化など、大きな変革期を迎えていることから、次期基本計画の策定に当たっては、将来を見据えた施策の方向性や目標を定める必要がある。

現状及び想定される主な課題は以下のとおり。

### ◆発生抑制（リデュース）関係

- 生ごみ減量の普及啓発を進めているが、更なる減量の余地がある。
- レジ袋を含め、過剰包装の削減に向けた取組が十分とはいえない。
- 事業系一般廃棄物が増加傾向にある。

### ◆分別・リサイクル関係

- 単身世帯等から出るごみは、適切に分別されていないものが多く、効果的な周知方法がない。
- プラスチック製容器包装の分別開始から10年以上経過しているが、分別方法が十分に浸透しておらず、異物の混入が続いている。
- 小売店における古紙類等の店頭回収が普及しているが、回収量の全容を把握するのが困難である。

### ◆収集運搬関係

- 高齢化の進行により、ごみ集積所までのごみ出しが困難な世帯の増加が懸念されるが、それらに対応した新たな収集方法の具体的な方向性が定められていない。
- 需給の均衡等を考慮した一般廃棄物処理業の許可の運用が求められているが、長野市では制限を設けておらず、他の中核市と比較して、一般廃棄物収集運搬業の許可件数が多い。

### ◆その他

- 新たに建設される複合施設にリフレッシュプラザ機能を移転する予定であることから、市民に対する情報発信等の具体的な方向性を定めていく必要がある。